

令和7年2月21日

太田市議会議長 高田 靖 様

太田クラブ 代表 白石 さと子

会派行政視察報告書

1 期 日 令和7年1月27日（月）から29日（水）までの3日間

2 視察地（視察事項）

1月27日（月）

沖縄県 糸満市議会「市民提案型まちづくり事業補助金について」

1月28日（火）

沖縄県 石垣市議会「スポーツを活用したまちづくりについて」

「石垣市公営塾（石垣ニライキャンパス）の取り組みについて」

1月29日（水）

沖縄県石垣市 MSC 瑞穂高等学校 「MSC 瑞穂高等学校の取り組みについて」

3 参加者 5名

白石 さと子 町田 正行 山田隆史

渡辺 謙一郎 木村 浩明

4 視察概要 別紙のとおり

令和 7 年 1 月 27 日（月）

沖縄県 糸満市議会 「市民提案型まちづくり事業補助金について」

目的

まちテラス（糸満市市民活動支援センター）を通して糸満市の行っている市民提案型まちづくり事業は、本市の 1%まちづくり事業に似た事業であるが、非常に特徴のある提案が出されており、本市の事業を見つめ直すきっかけとして大変有益であり、そうした事業の詳細等を学ぶことで、本市においてもより良い事業のあり方等を模索することを目的とする。

沖縄県糸満市の概要

那覇市から南へ 12 k m に位置し、西と南はそれぞれ東シナ海と太平洋に面している。

人口 62,211 人（2024 年 3 月）

面積 46. 60 k m²

歳出総額 313. 5 億円（2025 年度）

概要及び所感

本市の行っている「1%まちづくり事業」は、令和 5 年度は 134 団体、令和 6 年度は 137 団体と、大変多くの団体に利用されています。また、毎年行われる発表会では有意義にまた継続して利用される様子がうかがえます。そのように地域の人たちにとっては無くてはならない事業となっています。

糸満市では、市役所とは別にまちテラス（糸満市市民活動支援センター）という施設があり、公益的活動をする個人、団体等の活動支援をサポートしています。市民は、ここを通してまち作り事業補助金を申し込みます。

補助金は、種類ごとに金額が決まっており、継続事業 20 万円、新規 10 万円、協働事業 20 万円、学生提案 5 万円となっております。この中の協働事業というものは、糸満市政の提案した課題を協働で実施する市提案型事業です。学生提案型事業は、糸満市内在学の高校生、大学生が提案する事業です。その他の事業は自由提案型事業と言って市民がやりたいことを提案した事業です。

採択件数は、多い年で全体で 10 件ほどで、太田市の 1%まちづくり事業と比べると少ないのですが、太田市の事業は、自治体中心で継続が多いのに対して、糸満市の場合は、新規事業が多く、また自治体で申し込むのは、2 割ほどです。高校生、大学生の枠を設けていることや市が市民にやってほしいことを提案する協働事業というものが入っ

ていることで、この点は、太田市と大きく異なります。

太田市の課題は、若い人の参加が少ないことや、幅広い立場の人からの提案が少なく、役には立っているが、同じような提案になってしまう事です。これには、まちテラスと言う支援センターが、市民が何かボランティア活動をやりたいと行ってきた時に、一緒になってこんなことをやったら面白いのでは無いかと、アドバイスをしていることの影響が大きいのでは無いかと感ずる。また、びっくりするような面白い提案等もあり、総額や件数は本市に比べ少ないが、本市の課題である若者の参加や多様な施策などが盛りだくさんで、大いに参考にさせていただきました。





令和6年7月2日（火）

沖縄県 石垣市議会「スポーツを活用したまちづくりについて」

「石垣市公営塾（石垣ニライキャンパス）の取り組みについて」

目的

石垣市は単にスポーツの盛んな市と言うだけでなく、多くのスポーツ団体から合宿先に選ばれるなど、スポーツとの関わりが大きい自治体です。

また、市が運営する「公営塾」というものがあり、勉強だけでなく、主体的な人材育成を目的としています。

以上の2項目を学ぶ事により本市の市政に生かすことを目的とする。

沖縄県石垣市の概要

人口 49,530 人 (2024 年 6 月)

面積 229. 15 k m²

歳出総額 342. 7 億円 (2025 年度)

概要及び所感

1 つめのスポーツを活用したまちづくりについて

石垣市には、野球やサッカー等多くのスポーツ団体が練習場所として合宿に訪れるなどスポーツ関連で人を呼び込んでいます。群馬県でも健大高崎の野球部員が合宿をしに訪れています。石垣市では、「石垣島スポーツコミッション」を設立しスポーツツーリズムを推進しています。

実際には、先ほどの合宿のほか、

- ・空手ツーリズム・・・沖縄発祥の空手を題材にツアーを計画
- ・サイクルツーリズム・・・「新城幸也ロード」を活用したサイクルイベント、昨年は 200 名が参加

・ユニバーサルスポート大会の開催・・・「モルック」というスポーツの大会を開催などを企画しています。また、訪れた学生や選手がアルバイトをしながら合宿が出来るよう環境を整えて誘致を促しています。また、NTT と協働して各競技を AI カメラで撮影し実況解説付きのライブ配信をするなど現地で観戦しなくても試合の様子がわかる様にしています。2024 年 12 月の「沖縄県高等学校新人バレーボール競技大会」では、延べ 2 万 1500 人が視聴するなど、移動が大変な沖縄県でのニーズに合った企画だと関心しました。

2 つめの視察項目は、石垣島公営塾です。塾と言っても勉強を教える学習塾ではなく、「自立型人材育成」と言ったもので、様々なボランティア活動を行いながら自ら提案し、課題を解決して行く実践型の学習です。例えば、町おこしをするためにカルタを使ってアピールしたり島内の高校をまとめて交流するお祭りを行ったりしました。また、農家をお手伝いしたり、島を掃除したりもしています。こうした活動を通して生まれるのは、生まれ育った島に対する愛着であったり誇りであったりします。こうした気持ちを育んだ塾生は、大学に進学しても将来島に戻ってこようと思うようになると思います。実際に、大学へ進学する際、推薦入試に塾での経験が役立つそうです。

石垣市の人口ピラミッドを見せてもらいました、日本の平均的なピラミッドと比較して余り裾のすばまっていない（こどもの人口が多い）ものでうらやましい限りです。

しかし、高校を卒業してから 4 年間ほどは 3~4 割ほど少なくなっています。大学が島に内からだそうです。ただ、その上の年代で、減った半分ほどは戻っています。U ターンして島に戻ってきているのでしょうか。

観光客も多いせいかもしれないが、ひなびた感じがしません。また自衛隊の人も、家族をつれて続々と移住してくるそうです。今回視察させていただいた、活動も、ダイナミックであり活発に市としても企画、発信している様です。それぞれ、本市とはひと味違った施策であり刺激を受けました。これらを何らかの形で今後の市政に生かして行きたい。





令和 6 年 7 月 3 日（水）

沖縄県石垣市 MSC 瑞穂高等学校 「MSC 瑞穂高等学校の取り組みについて」

目的

社会（生徒）や学習環境の変化に伴い、今までも多様な学びの機会を求めるニーズがありました。それに応えるように夜間学校、通信制学校、単位制フレックススクール、フリースクール等が設立され、また通う児童生徒が増えてきました。中でも通信制高校は、近年のネット環境の発達によって今までに無かった授業や集会、部活動等を展開し人気を集めています。今後も発展が期待出来る通信制高校を視察する事で、多様な教育に対する理解や視野を広め本市の教育に役立ててゆくことを目的とする。

瑞穂 MSC 高等学校

石垣キャンパス（本校） 沖縄県石垣市新栄町 6-18

概要及び所感

学校法人みずほ学園「瑞穂 MSC 高等学校は本校を沖縄県石垣市に設置し、離島の振興をはかると共に、この島特有の自然と人々の温かさにふれることで豊かな心をもつ人材の育成に努めています。全国にスクーリング会場というものがあるものが 8 会場あり 4～5 日程度参加しますが、一度は石垣本校に行かなければなりません。今現在は、全国に生徒が 200 名弱、その内石垣島に 35 名です。少ない人数ですが、今後はスクーリング会場を増やし生徒も増やして行く予定で実際に増えているようです。また、石垣本校に在籍している生徒は、本校に来て学習している人もいます。

学校の目的の中に、「他人の痛みを自分の痛みとして受け取る事のできる優しい人」の育成というものがあります。生徒の中には、転校前の学校で心に傷を負った人も少なくありません。本校は、規模は大きくありませんが、生徒に対する教員の比率が高く、一人一人に寄り添うような体制をひいていました。印象的だったのが、ネット上で学校や町の仮想（バーチャル）空間があり、アバターという生徒は自分の人形を自由に操作し、その中で他の生徒と出会い会話をして行きます。人見知りの生徒でもこれなら参加出来るようです。何に何回か生徒が学校に集まる（4泊5日程度）事がありますが、すでにアバター同士で顔見知りになっている為スムーズに交流出来るようです。通信制高校の中には、ネット人材を育成する事に主眼を置き、何万人も生徒を集めている学校もあります。しかしながら、本校を見学して、生徒集めに成功した大規模の通信制高校は商業的には成功しているけれども、この学校も負けてはいないと思いました。自分のこどもを通わせるにはどちらを勧めたら良いかを考えた時、将来 IT 分野で活躍をのぞみ、自分で得意な分野を伸ばして行くなら大規模な学校も良いかもしれないが、例えば対人関係に悩みながらも友達を作って豊かな心を育んで行きたいと思っているなら、迷わず「瑞穂 MSC 高等学校」を進めようと思います。現在は、単体での経営は苦しいようですが、親会社は医療系の学校を中心に大きく運営しています。先生の何人かは親会社の学校から派遣されてきていました。理事長は、「生きるしあわせ、すべてのひとに」を理念としてグループを運営しているそうです。そうで無ければ、ボランティアのような運営はしていないでしょう。それとなく、太田市に分校を作る予定は無いのか聞いてみましたが、今のところ無いようでした。

通信制高校も様々な特徴を持ったものがあり、どこへ入学するかを選べる時代になりました。通常の全日制の中学・高校ではない学校に対して、様々な理由で進んで入学しています。例えばプロスポーツを目指す生徒が、勉強は短期間で集中して行い、他の時間をスポーツの練習に使う為に入学していました。今回の視察では、学びの多様性について多く

のことを得られたと思います。



